

若者参加による地域魅力化・元気プロジェクト

～ 継続的に地域を支えるための、人材育成 ～

江津市 嘉久志まちづくり推進協議会

1 嘉久志地区の概要

(1) 地勢

県のほぼ中央に位置する江津市は中国地方随一の大河、江の川河口に開けた市である。その中で、嘉久志地区は中心市街地に位置する住宅地である。

(2) 人口規模

世帯数 約1,450世帯

人口 約3,050人

(3) 歴史等

昭和40・50年代に、他地区からの転入により人口が急速に増えたIターンの先進地である。血縁・地縁による縛りが少なく住み良いとされてきた。それゆえに、人間関係が疎遠で、地域に対する帰属意識が低い。

(4) 学校等

隣接する町と校区を共有する小学校1校（生徒数251名）を区域内、中学校1校（生徒数222名）を江津町内に有する。

(5) 地域活動

子ども神楽の取り組みや高齢者対象の体力づくり、認知症予防の脳トレ、などが、継続して行われている。

また、小学生の登下校の見守り活動が活発に行われており、学校支援や放課後支援など学校との関りも深い。

(6) 地域コミュニティを核としたまちづくり

公民館から地域コミュニティ交流センターへ移行して4年目となる。これまで、高齢者リーダーが中心であったが、将来設計を関上げる中で地域の次代を担う人づくりに力を入れる必要がある。

2 事業の趣旨

(1) 事業の対象 小中学生と保護者

(2) 目的

まちづくり推進をする上で、不可欠である若者の参加を促すために、昨年度隠岐海士町派遣研修に参加した中学生が提案した「未来創造委員会」を立ち上げ、役割と責任を明確にしてまちづくりに参画させる。このことにより様々な体験を通して、有用感を自覚させながら次代のリーダーを育成する。

3 具体的な取組内容

(1) 未来創造委員会の組織立ち上げ

ア、小学生委員会設立6月20日

イ、中学生委員会設立7月12日

各校を訪問し、集会で役員選出

(2) 小中学校合同、海士町派遣研修

リーダー研修として焼酎の役員を海士町に派遣し、小学生は福井小学校との交流会、中学生は海士町のまちづくりについて学習した。

(3) 小学生委員会が、伝統行事である納涼盆踊りへの参加者増加を図るため、お楽しみ抽選会を開催した。

(4) 小学生委員会が、ヒマワリの背の高さを競う「ひまわり背高選手権大会」を主催し、町民体育大会で表彰式を挙行了した。



(5) 小学生委員会が町外にある、江津警察署前の街路樹下に、交通安全を呼び掛けるために「交通事故74(なし)思いをヒマワリにのせて!」をスローガンに74本のヒマワリを植えた。

(6) 中学生委員会による事業企画

海士町派遣研修に参加した中学3年生を中心に自分たちで主催する事業を企画実施した。

実施した企画は、海士町派遣研修の時に「隠岐の國学習センター」において、隠岐島前高校生と一緒に体験した、自分の将来について学ぶ「夢ゼミ」を親子参加型で開催した。

4 評価と成果

(1) 未来創造委員会は何よりも機動力を有した元気集団であることから、これまでのまちづくりの諸行事の中に、若者としての小学生中学生の姿が多く見られるようになってきた。

(2) 小学生中学生の中に、少数であるが、まちづくりを意識し、まちづくりのために貢献しようとする意識の芽生えが見られるようになってきた。

(3) まちづくり推進委員会のメンバーと創造委員会の児童生徒の間で、お互い顔が分かるようになり、日常生活の中でも声を掛け合うなど、良好な人間関係が構築できつつある。

(4) 海士町派遣研修に参加した保護者をはじめ、役員生徒の保護者など、委員会をサポートすることにより、まちづくりの活動に積極的に参加する姿が見られるようになってきた。

(5) 今年度の町民体育大会開会式の選手宣誓を自治会を代表して、小学6年生の男児2名が、立派に役割を果たした。また、昼食時を利用して、「ヒマワリ背高選手権大会」の表彰式を自主

運営する姿を見て、地域の大人たちが小中学生もまちづくりの構成員であり、まちづくりに参画する権利と義務を持っていることを、確認認識できつつある。



《町民体育大会での小学生による選手宣誓》

5 今後の課題と見通し

(1) 未来創造委員会のより主体的な活動の推進を図る

ア、委員会役員に偏りがちであるので、より多くの会員が参加することのできる活動を工夫する。

イ、地域の課題に気付き、学ぶことにより、地域貢献への意欲と企画運営のスキルを身に付けるための体験的場面の設定を試みる。

(2) 次代のリーダー（保護者世代）の育成

ア、子ども達の委員会活動を支えながら、自らも地域活動に主体的に関われる場を提供する。

イ、この活動に関わる保護者同士が気軽に付き合うことができるために、保護者の自主活動を実施する。

(文責：顧問 田中利徳)